

## 具志川 (グシチャール)

### 具志川の今昔

具志川には王国時代に番所が置かれ、一九一〇年(明治四十三年)に平良川へ移転するまでの間具志川間切の行政の中心としての役割を果たした。一八八一年(明治十四年)中頭を巡回した二代県令上杉茂憲はこの番所から金武湾洋上に浮かぶ平安座・高離(宮城島)・伊計島のすばらしい景観を記述している。また、この時の問答に具志川間切における学校開設の件が出ているが翌明治十五年番所屋敷の一角に具志川小学校が開設された。

具志川には安慶名大川按司の三男が配されたといわれる具志川グスクや市の無形文化財に指定されている「ウスデーク」がある。字内の所どころには若むす石垣や大きな福木に囲まれた屋敷、狭い坂道など歴史の重みが伝わる風情がある。

終戦直後は、諸物資の陸揚げ港として金武湾港(ブラマ港)があり、一帯は主として那覇近郊の引揚者の居住地として「金武湾区」が誕生した。ここにはデパートや服装学院、診療所、劇場、ホテルなどが建ち、多くの人で賑わった。また戦後第一回の全島陸上競技大会が金武湾初等学校グラウンドで開催されているが、その頃はコースを引く石灰がないので戦果のメリケン粉を使ったという食糧難のこの時代に信じられないエピソードが伝えられている。

### 具志川地名について

具志川という地名の意味について二つの説がある。それを簡単に紹介すると一つは「すすき原」説で、グシチ(ススキ)が繁茂する原野という意味からグシチ↓グシチャールになった(具志川市誌)。他の一説はグシチ(ススキ)は魔除けに使う聖木であるからチャール(川)と結びついて「グシチャール」になった。だから具志川の意味は「聖なる川」である(外間守善・法政大学教授)。「一説ともグシチを語源にした考え方であるが、多くの地名学者が指摘しているようにクバなどの数例はあるが一般的に植物名が地名となる例は少ないことや昔はいたる所にグシチが繁茂していた筈である。また「聖なる川」説も字内に「川」は流れてなく、グシチを「聖なるもの」とするのは疑問であり、これを魔除けに使う時は「ゲーン」と言った。

### 具志川の語源と意味

では具志川の語源と意味は何だろうか。まずグシ(クシ)について調べてみると沖繩には具志川はじめ具志・具志頭・具志堅・久志など数多くあり、奄美にも久志・久慈・具志検がある。これらグシ(クシ)の意味については次の説がある。

- ・ 箭の義である(柳田国男)。
- ・ 岬、自然堤防や砂丘などをいう(鏡味完二)。

- ・ 崩れで海食崖の地や小半島をいう(松尾俊郎)。
- ・ 越えた所、後の意味がある(谷川健一)。

等の説がある。県内には「具志川城跡」と呼ばれるところが久米島町・糸満市・うるま市にあるがその共通点はいずれも「海岸に突き出した丘に形成されている」、「絶えず波に浸食され崩崖の地である」。また具志・具志堅・具志頭・具志検・久慈・久志なども丘陵地や台地上に位置する。

これらのことから「グシ(クシ)」の意味は「崩崖の丘」「小半島、丘陵地」の意味と考えられる。但し名護市の久志はその位置からして谷川説(越えた所、後)に合致する。

- 次にチャールの意味について調べてみると、まず具志川の地名が古い記録に現れているのは
- 尚忠王時代・・・伍是佳
  - 尚宣威王時代・・・具是佳
  - 尚真王時代・・・具是迦
- (南島風土記より)

といずれも具志川の「川」は「カ(カー)」であった。それがカ↓キヤ↓チャールと変化しながらチャールとなり川と表記されるようになった。

沖繩では、井戸・井泉をカーと呼んでおり(川はカーラが普通)、カー(チャール)が井泉を意味していることは疑えない。おもろさうしに具志川は水の豊かな地として語られ、現在でも数多くの井泉(跡)が残されている。

以上のような視点からチャールは「井泉・豊かな水」を意味し、具志川は「丘陵地

で水が豊かな所」となり、具志川グスクは「崩崖地、あるいは小半島の水の豊かなグスク」という意味になるか。具志川グスクは現在も崩落が続いており、ブラマと呼ばれる下方の海はこの崩落と関係した地名と思われる。

### 『アカジャンガー』

具志川小学校の北西側、金武湾に面する崖淵に「アカジャンガー」と呼ばれる井泉がある。水量は以前に比べいくらかは変化したとはいえ現在なおコンコンと太古からの清らかな水の音を響かせ下流の農地や養殖場を潤している。貝塚人はこの豊かな水源を頼って付近で生活し、「アカジャンガー遺跡」を残している。その出土物から貝塚時代後期の遺跡で弥生文化圏との交流もうかがわれるという。

さて、このアカジャンガーの地名の意味だが「アカ」は石川の赤崎でも述べたようにその地形からして崖地のことで「ジャン」は水がジャンジャン流れ落ちる音、擬声語からきている。アカジャンガーは「崖から水が流れ落ちる(湧き出る)カー」という意味になる。栄野比の東方山手のところにジャンジャン洞と呼ばれる所があつてここはかつてその辺りから水が滝となつて流れ落ちていた。また昆布にある「ガンガラゲムイ」も現在滝の音はないが水が流れ落ちる擬声語からきた地名である。